

## 【原田禎夫ゼミナール】「4 大学ディベート大会」を開催しました。

2018/07/03

6月30日(土)、関西大学 林ゼミナール、関西学院大学 高林ゼミナール、同志社大学 伊多波ゼミナール、そして本学 原田ゼミナールによる、「4 大学ディベート大会」を開催しました。

この大会は、大学の枠を越えて 10 年間続いている取組であり、それぞれの大学が順番に開催場所となっております。今年は、2017 年 4 月に誕生した、本学 新キャンパス「ユニバーシティ・コモンズ リアクト (University Commons re-Act)」にて開催されました。

本学 原田禎夫ゼミナールからは 3 年次生 23 名が A・B・C 班に分かれて参加しました。当日は 13 時から開会式があり、13 時 30 分から第 1 ディベート、14 時 50 分から第 2 ディベートが行われ、各回 3 試合、計 6 試合が開催されました。

第 1 ディベート	
①ベーシックインカムを導入すべきか	同志社大学 A — 関西大学 A
②電波オークションを導入すべきか	同志社大学 C — 大阪商業大学 A
③カジノを導入すべきか	関西学院大学 — 関西大学 C
第 2 ディベート	
①外国人労働者を受け入れるべきか	同志社大学 B — 関西大学 B
②ペットボトルのデポジット制度を導入すべきか	大阪商業大学 B — 同志社大学 D
③レジ袋を禁止すべきか	大阪商業大学 C — 関西大学 D

第 1 ディベートでは、「電波オークションを導入すべきか」について、本学 A 班(否定側)が同志社大学 伊多波ゼミナール C 班(肯定側)と競い合いました。肯定側の反駁に上手く対応できない場面があり、惜しくも結果は敗れてしまいました。

第 2 ディベートでは、「ペットボトルのデポジット制度を導入すべきか」について、本学 B 班(肯定側)が同志社大学 伊多波ゼミナール D 班(否定側)と競い合いました。肯定側立論で述べた主張の根拠資料に対して、厳しい指摘が入り、上手く対応できず否定側の主張を一部認める場面があり、惜しくも結果は破れてしまいました。

また、「レジ袋を禁止すべきか」について、本学 C 班(肯定側)が関西大学 林ゼミナール D 班(否定側)と競い合いました。結果は、しっかり準備したことが発揮でき、見事勝利しました。判定員の同志社大学 伊多波ゼミナール A 班からは、「主張に勢いがあった」「しっかりと根拠が示されており、説得力があった」との講評をいただきました。

ディベーター以外にも、司会・タイムキーパー、判定員の役割もあり、他のディベートへの参加もあったため、他大学の学生から良い影響を受ける機会となりました。

最後に、閉会式にて先生方から「このディベート大会は勝ち負けよりも、終わったあとの反省が大事である」との説明がありました。終了後、さっそく学生たちは「この部分の準備が足りなかった」「この資料が主張の根拠となったのに、緊張して忘れてしまった」等と反省をしていました。

今回の取材にご協力いただきました、関係者の皆さま、ありがとうございました。



<開会式の様子>



<最終打合せの様子>



<判定員の様子>



<司会・タイムキーパーの様子>



<ディベートの様子(本学 A 班)>



<ディベートの様子(本学 B 班)>



<ディベートの様子(本学C班)>



<作戦タイムの様子(本学C班)>



<閉会式の様子①>



<閉会式の様子②>